

2017年7月9日（日）

1. 震災・復興とリスクマネジメント（）
2. 国際都市神戸と世界の文化（）
3. 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ（）
4. グローバルサイエンスと拠点都市神戸（）
5. その他（○）

[概要]

SGH 第3回グローバルリーダーセミナー

活動の様子

医師、医療従事者、一般市民、学生、中高生、がん問題に関心を持つあらゆる人々が、立場を超えて集う「がん哲学外来市民学会」に本校生徒が参加しました。昨年度、本校で行われました「がん教育」の実践報告などがありました。



順天堂大学（病理・腫瘍学）樋野興夫教授を囲んで



神戸薬科大学入口にて

参加生徒の所感

がんや医療の世界について生死についてだけでなく、考えがつかなかった角度からの講義を受ける事ができました。（前期生）

医師には、学者的、人間的（患者との温かい人間関係）の2つの面での使命があるという話が、印象に残りました。（前期生）

治療のためには、医学的な知識だけでなく、心理的・人間的な言葉によるケアも必要だという考えに賛同します。（前期生）

基調講演での「がん哲学外来」概念は、とても新鮮に感じました。がんなどの病気は、防ぐことはできる事もありますが、防ぐことができないこともあります。そこで、その先に待つ「人生」をどのように生きるかが大切だと学びました。（後期生）

がんと闘うことは、「病気であっても、病人ではない」生き方をすることでもあることを学びました。日々学び、研究し、患者に寄り添い、後世に向け教育をすることが、医療従事者の理想像なのだと感じました。（後期生）